

①特定健康診査受診率向上事業

- 【実施内容】
- ・平日夜間土日の健診事業の開催
 - ・受診者へ、がん検診受診補助券を配付することにより、がん検診も含めた受診率の向上対策を実施
 - ・受診率向上につながる検査項目導入の検討
 - ・オプション検査（貧血検査等）の導入
 - ・受診啓発グッズの配付など

【目標値及び評価方向】

アウトプット・アウトカムを以下のとおり設定する。

アウトプット	アウトカム		
	目標値		評価方法
・対象者に受診券の送付 100%	短期	受診率前年対比 2%向上	事業対象者のうち特定健康診査を受診した人数より確認する。
・未受診者への勧奨通知 100%	長期	特定健康診査受診率 53%	特定健康診査受診率を確認する。



②特定保健指導利用率向上事業

- 【実施内容】
- ・地域の身近な会場（市内3ヶ所）で開催
 - ・検診結果手渡し方式の継続
 - ・検診会場にて特保判定の流れの周知と利用啓発に実施
 - ・個別案内通知の他、電話による利用勧奨
 - ・指導開催日毎の事前通知
 - ・血糖測定会の開催
 - ・取り組み効果を客観的に見られるよう、血圧・体重・腹囲測定のほか、インボディや活動量計の活用

【目標値及び評価方向】

アウトプット・アウトカムを以下のとおり設定する。

アウトプット	アウトカム		
	目標値		評価方法
・対象者に利用券の送付 100%	短期	特定保健指導利用率 前年対比 2%向上	特定保健指導利用率の確認
・新規対象者への電話等での勧奨率 80%	中長期	対象者の指導利用率 35%	特定保健指導利用率の確認



計画の公表、周知、評価及び見直し

特定健康診査・特定保健指導の目的、内容、効果や、特定健康診査・特定保健指導実施計画の該当については、市広報紙、市ホームページ等で公表し、被保険者及び市民への周知を図ります。

また、計画の評価及び見直しは毎年行い、事業を継続的に改善してまいります。



岩沼市国民健康保険
第3期特定健康診査・特定保健指導実施計画

概要版

計画策定の趣旨

この計画は、岩沼市国民健康保険が高齢者の確保に関する法律第19条の規定により、特定健康診査及び特定保健指導の実施に関する計画として定めました。策定の趣旨としては、メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍を減少させることにより、国民健康保険被保険者の健康維持・生活の質の向上と、中長期的な医療費の適正化を図るために、国が示す特定健康診査等基本指針に即して特定健康診査・特定保健指導を効果的・効率的に実施する方法及び体制等について定めるものです。

本計画の期間は、平成30年度からの6年間とします。

岩沼市の概況

市の人口の動きを見ると、総人口は横ばいで推移しています。

一方、高齢者人口は増加しており、特に65歳から74歳までの前期高齢者人口が増加しています。

年度	総人口 (各年度10月末現在)	前期高齢者人口 (65歳～74歳)	後期高齢者人口 (75歳以上)	高齢者が 総人口に占める割合
H27	44,270人	5,425人	4,854人	23.22%
H28	44,345人	5,651人	4,993人	24.00%
H29	44,286人	5,901人	4,691人	23.92%

岩沼市国民健康保険被保険者の推移と一人当たりの医療費の推移

国民健康保険の被保険者数は毎年減少が続いております。ただし、被保険者数は減少していますが、高齢者の割合が非常に高くなってきており、医療の高度化や高齢化に伴い、一人当たりの医療費は増加しています。

年度	被保険者数	一人当たり医療費	
		一般被保険者	退職被保険者
H27	9,575人	372,734円	430,723円
H28	9,178人	366,685円	418,056円
H29	8,863人	386,297円	387,121円

（※被保険者数は毎年度3月末時点。ただし、平成29年度は推計値）

特定健康診査

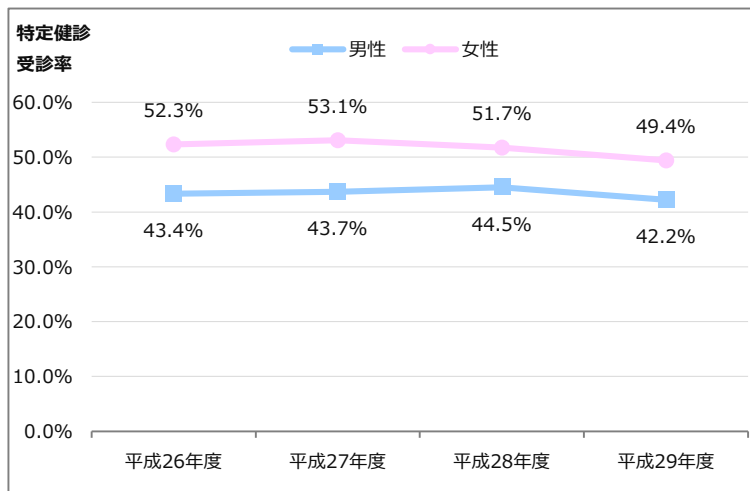
平成29年度の特定健康診査受診率は43.1%と平成26年度より5ポイント下降し目標値の60%には達していません。

また、男女別特定健康診査受診率は、平成29年度女性の49.4%に比べ、男性は42.2%と低くなっています。

有所見者割合は、HbA1c、LDLコレステロール、収縮期血圧が高い傾向です。

喫煙習慣では「喫煙あり」14.2%、飲酒習慣では「毎日飲酒する」23.9%、生活習慣では「改善するつもりなし」24.7%となっています。

年度別・男女別 特定健康診査受診率

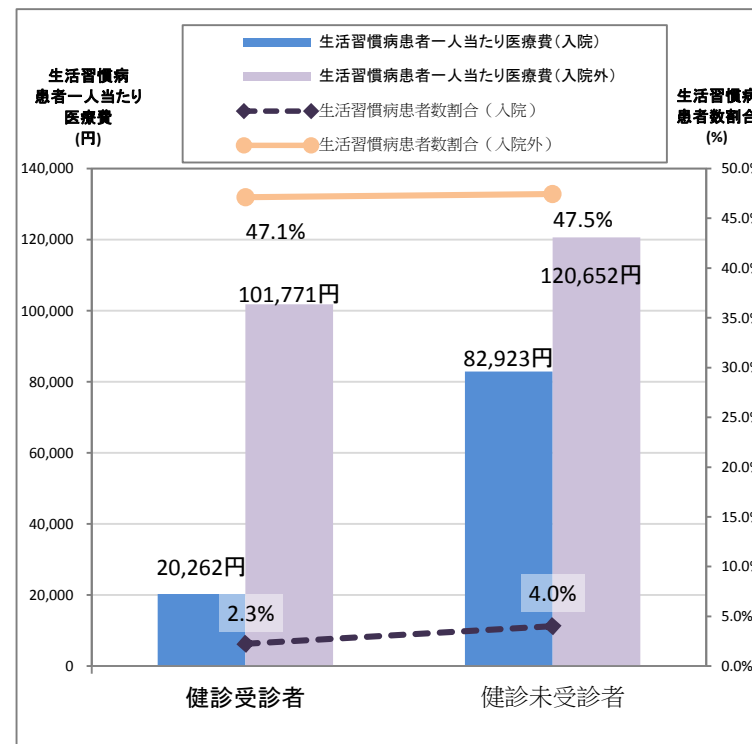


特定健診の受診者と未受診者の生活習慣病医療費

①特定健康診査受診率向上事業

特定健診受診者と未受診者とで、生活習慣病での医療費を比較したところ、入院外では**約18,000円も未受診者一人あたりの医療費が高く**、更に入院医療費で比較した場合では、**未受診者の一人あたりの医療費は受診者の4倍以上の82,923円**にのぼることがわかりました。

このことから、医療機関に定期的に通うだけではなく特定健診を受診することで、生活習慣病が重症化することを防ぐことにつながり、結果的に将来の医療費を抑えることができると考えられます。

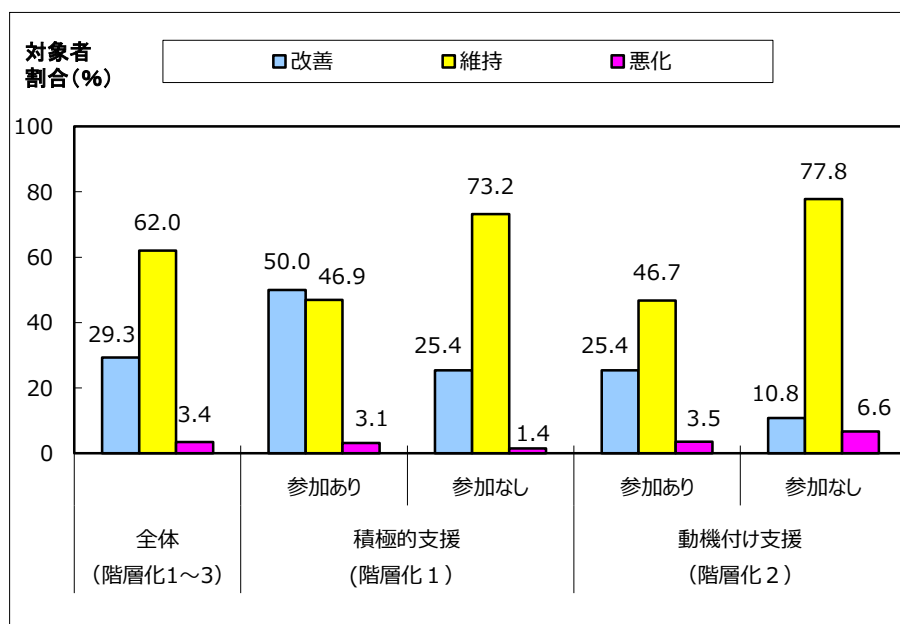


特定保健指導

特定保健指導の実施率は、平成26年度の20.5%より平成28年度は17.2ポイント増加し37.7%となりました。

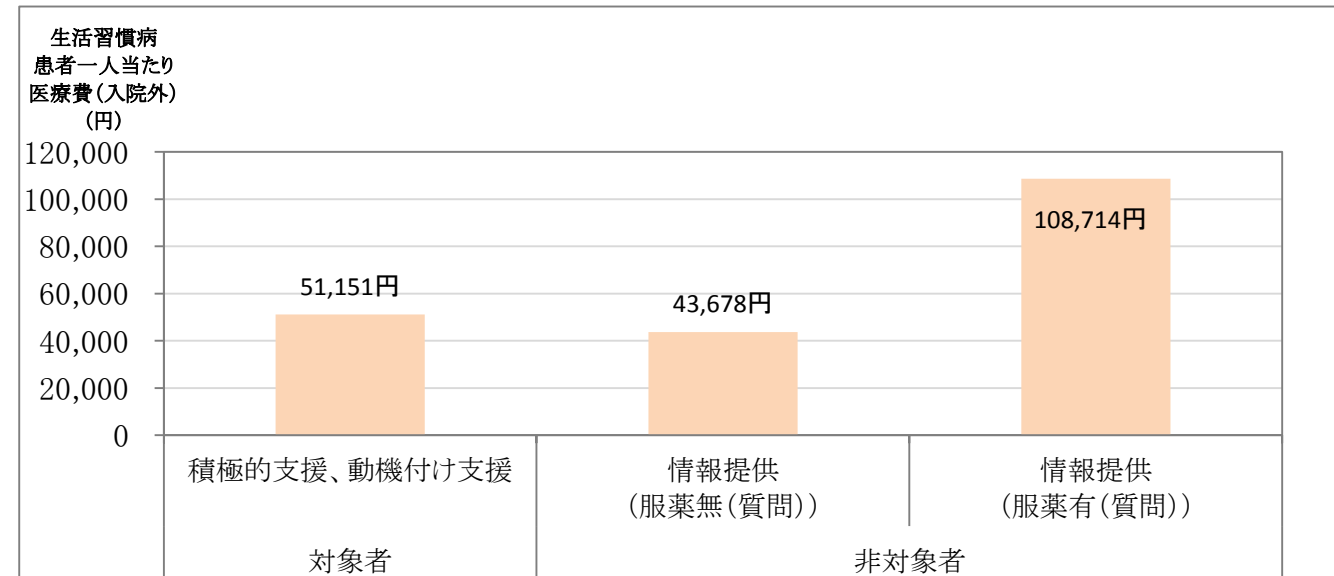
また平成28年度特定保健指導参加の有無で平成29年度の検診結果を「改善」「維持」「悪化」に分けて比較したところ、参加者の方が改善率が高く、特に個別健康問題に寄り添った指導を行った積極的支援参加者のほうが改善率が高いことがわかりました。

平成28年度 特定保健指導参加の有無でみた翌年度の健診結果



特定保健指導対象者と非対象者の医療費の比較

②特定保健指導利用率向上事業



岩沼市
マスコットキャラクター
「岩沼係長」

特定保健指導対象者と非対象者の入院外の医療費を比較しました。

非対象者のうち、「**服薬有(質問票で、医療機関で生活習慣病の薬を処方されていると答えた方)**」は、「**服薬無**」の**2倍以上の108,714円**となっています。

特定保健指導により、「対象者」の生活改善を促し、服薬開始を防ぐことが重要であるといえます。

中分類による疾病別医療費統計

中分類による疾病別統計(医療費上位10疾患)

平成28年4月～平成29年3月診療分
※網掛けは生活習慣病

順位	疾病分類(中分類)	医療費(円)
1	腎不全	222,553,889
2	高血圧性疾患	173,255,229
3	糖尿病	159,453,305
4	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	141,301,668
5	その他の悪性新生物<腫瘍>	125,799,593

中分類による疾病別医療費を見ると、「**腎不全**」「**高血圧性疾患**」「**糖尿病**」の順で医療費が高くなっています。これらはすべて「**生活習慣病**」といわれるものです。

また医療費上位10疾患の中に、9位の「**脂質異常症**」を含め生活習慣病が4つ含まれています。